

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1277500151		
法人名	有限会社 いすみ福祉サービス		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	〒298-0004 いすみ市大原10035番地		
自己評価作成日	令和4年3月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigodb.com/jigyousho/1277500151-320/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症により自立が困難になられた方や、ご家庭での介護が困難になられた方を温かい家庭的な雰囲気でお迎えし、自由な生活や生きがいを持って暮らしていけるよう支援。一人ひとりの尊厳を大切に、利用者の立場に立ったサービスの提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの要所要所に理念の「一人ひとりの尊厳を大切に」を掲示し、車椅子の利用者と話をするときには必ず腰を落として目線が同じくらいになるように注意したり、ADLの低下に伴い他の施設やいは病院に移るかという状態になった時でも、本人は長いこと此処にいるのでホームで暮らしたいという意思を大切に、起きられるときに起き、食事の出来そうなどに食事をしてもらう等本人の状況に合わせた対応に努めている。利用者は殆ど毎日午前組と午後組に分かれて散歩しており、時には1時間位かけて以前保育園だった公園や大原漁港まで足を延ばすこともある。散歩の途中で、近隣の方々や挨拶をしたり、声を掛けてくれて農産物やキンカン、ケーキをくれることもある。漁師をしている施設長の同級生等が、市場に出せないイセエビやバケツ一杯のイワシ等を持って来てくれるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるグループホームである。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同、利用者が人としての尊厳を有するものと認識し、高品質のサービス提供に努めている。	経営理念の「一人ひとりの尊厳を大切に」をホームの要所所に掲示し、ミーティング時に確認し合い実践している。例えば、受け答えが難しい利用者に対しては、食事ができそうなどに食事をしてもらうなど、その人に合ったサービスを提供している。また、職員は相手の身になって、自分の祖父母に接するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員、利用者共に近所の人と気軽に挨拶を交わしている。	回覧板を通して地域の広報誌をもらい情報収集に役立てている。民生委員が情報を持って立ち寄ってくれる。利用者全員を午前と午後に分けた散歩は、時には1時間位かけて以前保育園だった公園や大原漁港まで足を延ばすこともある。散歩の途中で、近隣の方々が声を掛けてくれて、キンカンやケーキをくれることもある。施設長の漁師をしている同級生が、市場へ出せないイセエビを持って来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や面会を随時行い、理解を深めている。 ※コロナの為面会制限をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では積極的に家族からの要望を聞き、より質の高いサービスの提供に努めている。	運営推進会議は、昨年の途中からコロナ禍で書面会議になった。家族が面会に来た時や電話での問い合わせ、また、民生委員から面会は何時からかとか、どこかへ行かないのか等の質問に対する回答や利用者状況、活動報告、行事等について報告書として、行政や民生委員には持参するが、家族に対しては手渡しや郵送をしている。	運営推進会議の報告書は、一部の家族だけではなく全家族へ送付することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡を取り合っている。	市役所へは運営推進会議の報告書を持参する際に、コロナ用のマスク等を取りに行ったり、情報交換を行っている。ワクチン接種の窓口である保健センターとのやり取りもしている。生活保護者に関しては、以前は市から訪ねて来てくれたがコロナ禍で報告程度になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け、理解を深め、身体を拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会で車椅子の疑似体験を行い、1時間位すると違和感が出て、1時間以上は腰が痛くなることを体験した。その結果、車椅子の利用者に1時間おきに横になったり、立ってもらったりして体を動かしてもらうことにした。1時間位でトイレ誘導して車椅子から離れてもらうことで、リハビリが濡れ無くなったり、むくみが減った利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、態度や言葉遣いなど細心の注意を払い、防止に努めている。 内・外部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度の活用は十分なされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は納得のいく迄説明し、締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見は運営に反映されている。	家族からは、面会時や利用料支払い時に花見に連れて行って欲しい等の外出要望が良く出る。利用者で帰宅願望が強い人には、お客さんがいない時間を確認して美容室へ連れて行ったりしている。「菜の花だより」は、利用者の日常の様子や行事等の写真が多く掲載されているため、家族からは大好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングで職員の意見や要望は積極的に聞く事の出来る環境作りをしている。	定例ミーティングでは、利用者に関する意見・提案が多く、ADLが低下してきた利用者のケアの仕方等について話し合っている。日常の業務の中でも職員から意見や提案が良く出ている。例えば、外で食事をする時などは、事前に話をしておいた方が良いとか、エアコンの調子が悪いので取り換えた方が良いのではないかと意見に対して買い替えることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努め、職員の定着という形で反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所では様々な研修に参加し、職員の質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加したり、相互訪問の活動を通じ、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の抱えている不安をとり除く迄充分に話しを聞き、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族の抱えている不安をとり除く迄充分に話しを聞き、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を判断し、状況に応じた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活する」という意識を持ち、生活活動は共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は連絡を密にとりあい、本人を支えていける体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会等、出来る限りの支援をしていけるよう努めている。 家族の介助が難しい場合、職員が自宅まで付き添い、支援等も行っている。 ※コロナの為面会や外出制限有。	面会は、室外で間隔を開けて顔合わせ程度にしている。コロナ禍でもできるだけ外出支援を行っている。初詣やドライブをしながら車の中から市内の桜のポイント巡りをしたり、公園の紅葉しているイチョウを見に行ったりしている。また、通院の帰りに菜の花を見に行ったり、スキーの大好きな利用者は、雪の日の通院帰りに雪を触っているところを写真に納めたら非常に喜んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調を考慮し、一日一回は必ず全員一緒に体操や散歩をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去をされる本人やご家族の相談やフォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から意向や身体状況などを確認している。また、日々の生活で本人の意思を汲み取り、その人らしい生活が出来るよう支援している。	美容院に行きたいという要望があり、家族の了解を得て出掛けたことがある。ADLの低下に伴い他の施設或いは病院に移るかという状況になったが、本人は長いことここにいるのでホームで暮らしたいという意思を大切に、起きれる時に起き、食事のできそうなときに食事をしてもらおう等本人の状況に合わせた対応をしていくように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを参考に、本人のこれまでの経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や身体状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえた上でケアプランを作成。その人にあったサービスの提供に努めている。	病気が再発して入院した利用者は、足の筋肉が落ちてむくみが出てきていることが分かった。家族と相談して車いすにすることを検討したが、本人はあくまでも自分の足で歩きたいという希望を強く持っていた。そこで、入院先の病院で歩行訓練のためのリハビリを取り入れてもらった。その結果、退院してホームに戻ってからは車いすを必要とせず、廊下を歩けるし、杖を使って外を歩ける状態ともなっている。本人の意思を尊重したケアが功を奏した一例といえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院支援など本人やご家族の希望に応えられるよう、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握し、個々が安全で楽しい生活を営めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。	入居前からのかかりつけ医に通っている人は眼科で一人、内科で一人いる。内科は家族に連れて行ってもらっている。殆どの利用者は協力病院の吉田外科内科に診てもらうことになり、定期的に薬をもらいに行く時に利用者を連れて行っている。入居前からのかかりつけ医に掛かっている場合は、医療情報をもらい協力医に連絡して情報を管理することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は医療機関の看護師と協力しながら状況に応じた適切な対処がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との関係作りを行っている。利用者の入院時にはまず不安をとり除き安心して治療が出来るよう、サポートしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師と相談しながら本人や家族の意思に沿って出来る限りの支援を行っている。	看取りは当ホームでは行っていない。従って重度化した場合は協力医の指示を仰ぎ、今後の対応を家族と相談することになる。それによって病院へ入院するか、医療行為のできる施設に移ってもらうことにしている。以前、紹介をして頂き他の施設へ移られた例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万一来に備えて職員は普通救命講習や心肺蘇生の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置を設置している。また、消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を行っている。年に2回行っている。	今年度、自主訓練の形で避難訓練を2回行った。車いすの人が多いが、この場合利用者を抱えて外に出て車に乗せるところまで行った。いすみ市主催の津波訓練はコロナ禍のためここ2年程実施されていない。水害に備えて自家発電機を1台購入したが、もう1台追加購入の計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉遣いに気を配り、プライバシーを損ねないように配慮している。	お互いに馴れ合いになると、他の利用者がある前でもストレートな言葉を発し勝ちとなるので、注意するように常に話し合っている。コミュニケーションを取るうえで、車いすの人と話す時には、必ず腰を落として視線が同じ位置になるようにすることに注意している。職員が立ったまま話すことは、威圧感を相手に与えることにもなり、避けるべきことで一人ひとりが常に意識を持って接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	順番に献立の希望をとり入れたり、行きたい場所に行ったりなど、個々の希望も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿ってはいるが、本人のペースで過ごしてもらい、必要に応じて見守る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは能力に応じて共同で行っている。また、旬の物をとり入れたり、定期的に外食会（現在コロナの為外出制限）を実施している。	食後の片づけ、食器を洗う、テーブルを拭く等の作業を出来る範囲で手伝ってもらうことで、共同意識を持ってもらうようにしている。行事食は月に1回開くようにしている。極力、季節に合わせた食事メニューを考えている。3月はひな祭りに、庭にテーブルを出してお稲荷さんを作って皆で楽しんだ。庭での食事はリビングでの食事と違ってリフレッシュ感に浸れることにもなり、普段とは違った雰囲気での時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取の記録を行っている。摂取量の少ない場合は本人の好みや間食などで対応し、必要な栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	参加した研修での知識を活かし、口腔体操を行ったり、毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。協力歯科医の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿チェックを付け、一人ひとりのパターンを把握し、声かけをしながら自立に向けた支援を行っている。	トイレで用を足すことは生活の一部で不可欠のものと考え、安易におむつで良いのではないかとということではなく必ずトイレに行くという習慣づけをしている。そのために、排泄に繋がる水分補給を重視して排泄管理表だけでなく水分チェック表もこまめに確認している。薬を使用している人は、とかく便秘になりやすく医師の指示を仰ぎながら極力薬に頼らないよう注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、個々に応じた運動などをとりいれ、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴は体力低下の為行っては行かないが、本人の希望や状況に応じて回数や時間は柔軟に対応している。	入浴日を決めて入浴してもらおうが、必ず「今日はどうしますか」と、本人の確認を取ってお風呂に入ってもらっている。浴場は、ホームで管理している3種類の絵からその時期に応じた絵を掲げるようにしている。現在は、富士山の絵が掛かっており、絵を楽しみながらの入浴をしてもらっている。その他、何種類かの入浴剤を用意し、香りを楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動や運動は積極的に支援している。また、その時々状況に応じて柔軟に対応し、休息や安眠が出来るよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用を把握し、日常の観察にも細心の注意を払い、病状の変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や能力に応じて、家事や季節の飾り付けなどの生活活動を行っている。また、季節の行事や誕生日会などを実施し、利用者の楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物の支援をしている。また、地域の行事や花見などの外出支援も行っている。	コロナ禍で外出機会が無くなってきているが、外気に触れてもらう意味からも庭に花壇を作って花や野菜などを植えている。殆どの方たちは土を触るのが好きなようで、感触を楽しんでいる。自然に接してもらい、自分たちが植えた花、野菜が育っていくのを見て喜んでいる様子が伺える。散歩は殆ど毎日午前と午後に分けて行っており、海も近く大原漁港まで歩いていくことも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まずは家族と相談し、同意が得られたら買い物などの際に能力に応じてお金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたり、手紙のやり取りは自由にでき、その為に文字の練習をしたりなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上、安全面には配慮されている。各自、自分の部屋がわかるように目印をつけるなどの工夫をしている。また共有スペースには、利用者の作品や写真を掲示し、季節の飾り付けもしている。	季節感を忘れないためにも、季節を感じる飾り物をリビングに飾っている。春ということで、天井から桜の造花をぶら下げて春らしい演出を試みている。また、手先を使うと良いということで、一人ひとりで作った物を一つに纏めて大きな絵に仕上げている。共同作業で作上げた成果物を皆で見ながら、話も弾んでいる光景がよく見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは話しをしたり、テレビを見たり体操をしたりとそれぞれの利用者が思い思いの時間を過ごせるよう、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、利用者が居心地良く生活できるよう配慮している。	自分の部屋が分かるように、部屋の前に紙で書いた表札、部屋の番号を貼って間違わないようにしている。入居前からの使い慣れた物の持ち込みでは、ヘアブラシ、化粧品、腕時計、ネックレス等身の回り品が多くなっているのが最近の傾向のようである。居室内での転倒防止に関しては、つまづく可能性の高い物は置かないように心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて出来るだけ自立した生活が送れるよう配慮し、なおかつ安全な生活が送れるよう支援している。また出来る事が減らないように支援している。		